

登録コード	UAA23500	開講年度	2026			
授業題目	哲学思想論実践演習				担当教員	篠原 成彦
					副担当	早坂 俊廣・護山 真也・三谷 尚澄
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・6時限	
				授業形態	演習	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。	
(2)授業の概要	「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」と題された中教審答申は、「知識集約型社会」の到来を前に、2040年の中等・高等教育を担う未来人材が身に付けておくべき「基盤的リテラシー」のあり方を提案している。また、その前提となるOECDの提言は、「変革を起こすコンピテンシー」として、3つの能力――すなわち「新たな価値を想像する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動をとる力」――を挙げている。 この授業では、OECDによる「変革を起こすコンピテンシー」の定義を出発点に採用しつつ、その発想を「哲学」という領域に固有の方法と融合させることを試みる。すなわち、現代社会を生きる「21世紀型市民」に必須の「変革を起こすコンピテンシー」のあり方を、「哲学を学習するもの」に固有の知的技術や思考の方法との連続性のもとに明確化し、そのことをもって日常的な「哲学」の学習を「現代社会の諸問題に適用可能な実践的知の技法」へと接続することがこの授業では試みられる。					
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：「自主的な学び」とソクラテスの産婆術 第3回：「アダルト・ラーニング」とプラトンのアカデメイア 第4回：「レジリエンス」を強化する実践的技法としての瞑想について 第5回：「ライフ・デザイン」：マルクス・アウレリウスにおける「皇帝であること」と「哲学者であること」の両立について 第6回：「協同で考える」（1）現代に生きる反デカルト主義とデザイン思考の関係について 第7回：「協同で考える」（2）哲学的方法としての「思考実験」とマインドマップの活用 第8回：「協同で考える」（3）コミュニケーション・デザインとしての哲学 第9回：「考えを伝え／理解を生む」ことについて（1）「理由の論理空間」という考え方 第10回：「考えを伝え／理解を生む」ことについて（2）パラフレーズという手法 第11回：「考えを伝え／理解を生む」ことについて（3）言語分析はいかに文章のあいまいさを減少させるか 第12回：リーダーシップについて（1）俯瞰する力としての哲学的反省 第13回：リーダーシップについて（2）哲学とリーダーシップ 第14回：リーダーシップについて（3）カントの啓蒙の精神：みずから手を挙げる勇氣について 第15回：リーダーシップについて（4）大衆の時代を生きるリーダーのあり方について 定期試験：行わない					
(4)成績評価の方法	ピア評価のシステムを導入する。ピア評価シートを用いて、プログラム開始時から終了時までの活動参加度、発話回数、他者の発話に真摯に耳を傾け、理解しようとする態度などの成長度合いを定量的に測定する。また、最終レポートとして、「自分が成長したと思える理由」を、具体的なエピソードと共に記述してもらうことを通じて、学修成果の確実な測定を実現する。 得点率による評価基準 90%以上 秀、89 - 80% 優、79 - 70% 良、69 - 60% 可、59%以下 不可。					
(5)成績評価の基準	成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。					
(6)事前事後学習の内容	自分の担当箇所について事前に入念に準備し、演習の結果を受けて事後に修正を加えることは、最低限行ってください。そのうえで、担当箇所以外についても、教科書・参考書を熟読玩味することが必要です。					
(7)履修上の注意	大学院生としての自覚をもって履修してください。					
(8)質問、相談への対応	以下のアドレスにメールを送ってください。 nshinoi@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	千葉雅也『勉強の哲学 来るべきバカのために』、文藝春秋、2017年					
【参考書】	バーネット&エヴァンズ（2017）『ライフデザイン スタンフォード式最高の人生設計』早川書房 ティム・ブラウン（2014）『デザイン思考が世界を変える イノベーションを導く新しい考え方』ハヤカワ文庫 ハイフェッツ&リンスキー（2007）『最前線のリーダーシップ』ファーストプレス					